



編集・発行 邑楽町役場企画課
 〒 370-0692 (住所記入不要)
 ☎ 0276-88-5511 (代表)
 ☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
 ☎ 0276-89-0136
 http://www.town.oragunma.jp
 ✉ koho@swan.town.oragunma.jp

邑楽町携帯サイト
 2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
 携帯用URL http://www.town.oragunma.jp/k



〈第七十八回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
 次の世代に残しておきたい。
 貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



新堀川は台風などによる豪雨時に、たびたび越水したため、現在の形へ改修されてきました(写真は昨年10月の台風の後、鞍掛橋付近)

新堀川と子どもたちのくらしの四季

子どもたちは新堀川を「はいせい」と呼んでいた。当時は川幅も狭く、川底も浅く、両岸は護岸の目的で柳が植えられ、その根がしっかりと堤に根を張って、夏の強い水の流れから両岸を守っていた。春、水の流れは浅く「はいせい」の橋の下は魚の住み家で、学校の休みの日には、近所のわんぱく少年たちと流れをせき止めて、ウナギやナマズを素手で捕らえた時の満足感は、今でも忘れられない。柳の芽も若葉から青葉に変わった初夏の頃、夕闇迫った「はいせい」の両岸には青白い光を放った。柳の葉から葉へと、また、水面すれすれに飛び交うホタルの群れに歓声をあげたり「ほうほうホタル来い、こっちの水は甘いぞ、あっちの水は苦いぞ」と麦わらで編んだ籠を持って、ホタルを追いかけ回したことも楽しい思い出。

あれから、もう70年も遠い昔になってしまった。ホタルが飛び交う、きれいな水辺の「はいせい」も今はもう昔の物語になってしまい、その姿を見ることは出来ない。ホタル狩りは幻の昔話となってしまった。

子どもたちは夏休みに入り暑い日には

「はいせい」も涼を求める少年たちであり、こちの橋の袂には大にぎわいになり真っ黒く日焼けした子どもたちが先を競うように、橋からざぶん、ざぶんと水しぶきを上げて、飛び込むさまは現在のプールのような盛況であった。

夏の「はいせい」にはいろいろな水草や藻が生えて、小魚やフナが水草の中に入ったり出たり、その様子を見ているだけでも、楽しい別天地のような気がした。私も魚になって水の中を自由に泳いでみたいな、などと思った少年時代であった。

夏休みも終わりの頃になると、あんなにもにぎわった「はいせい」。ひっそりと静まり返り藻が川の流れに任せながら、右に左に緩やかに揺れ動いて、一抹の寂しさが漂うようになる。

私たちは「はいせい」に限りない親しみと愛着を感じ「はいせい」も私たちが快く受け入れ、故郷を愛する心を養ってくれた。

現在の新堀川は、昭和50年代初期より新堀川土地改良事業による、改修工事により川幅も広く、深さも深く全てコンクリートで固められて、近代化され昔の堤は舗装され、車の行き来する道路になり、昔の面影は消えてしまった。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
 (平成20年6月28日発行「邑楽町の昔ばなし(第九集)あすへひとこと」)



青い (多々良沼公園)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)



ひとりごと From editors

▶JOYのコーナーを担当する私は、昨年まで町民体育館に勤務をしていました。課内異動ではあるもののスポーツから文化という180度変わった職場環境となり、毎日が新鮮です！毎号全力投球で広報紙をつくっていくので、よろしく願います！▶私が27歳を迎えるのに対し、町は町制施行50周年を迎えます。年齢にすれば両親と同じくらいになるのですが、この町には親のぬくもりのような雰囲気があるのか、私の同級生や先輩後輩が次から次へと帰郷してきています。町内で買っている物とたまに見かける懐かしい顔にホッとします。▶さて、完成した中央公民館。私からいろいろとご説明したいのですが、なにぶん説明が下手なので、ぜひ6月30日の内覧会にお越しください。(木村)